

講義名	ホテル事業計画論		
科目区分	学部フリーゾーン		
担当教員	高田 宏		
開講期・曜日・時限	前期 月曜日 3時限		
	2017年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2017年度 人間社会学部 観光学科 / 2017年度 人間社会学部 人間社会学科 / 2017年度 経済学部 経済情報学科 / 2017年度 経済学部 経済学科 / 2017年度 商学部 マーケティング学科 / 2017年度 商学部 経営学科 / 2016年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2016年度 人間社会学部 観光学科 / 2016年度 人間社会学部 人間社会学科 / 2016年度 経済学部 経済情報学科 / 2016年度 経済学部 経済学科 /		
履修開始年次	3年生	単位数	2
		講義コード	13055

主題と概要

最近、東京・大阪・京都を中心にホテル新設のニュースが頻繁に流れています。2018年の訪日外国人が初めて3000万人を超えたことを背景に、アパレル、婚礼会社などのホテル専門会社以外の企業が積極的にホテル経営に参画するようになってきました。ホテル事業に注目が集まってきています。

この授業では、ホテル経営指標の理解から入ります。損益計算書、ユニフォーム会計の初歩的な読み方、計算方法を実際のホテル会社の資料を使い、解説・実習を行います。その後ホテル経営会社・投資家の視点に立ち、ホテル開発の手法を学びます。

* 「ホテル事業経営論」の事前履修が望ましい

到達目標

到達目標は以下の通りです
 ・ 損益計算書、ユニフォーム会計の基礎理解
 ・ ホテル開発の手法の理解
 ・ ホテル開発の経営者、投資家の視点の理解

* 厚労省の国家資格「ホテル・マネジメント技能検定 3級」受験者に向けて基礎学力をつけることも目標とします。

提出課題

講義時間内に随時小試験の実施やレポートの提出を求めます。

評価の基準

授業への参加度、小試験・レポート(30%)、学期末試験(70%)
 必要出席回数11回。10回以下の場合はいかなる理由があっても単位の付与は無い

履修にあたっての注意・助言他

授業を受けるということは、他の生徒への思いやり(ホスピタリティ精神)が必要です。ホスピタリティ産業について学ぶ学生にとっては必須です。授業の妨げになる他者との会話、スマホ等の使用、メイクなどは不可。注意されなくても記録され減点の対象にします。

教科書

.使用しない。

プリント資料及び参考文献

・原則として授業は配布プリントで行います。
 (参考文献)「米国外国ホテル会計基準」(税務経理協会)
 「ホテル事業論」(柴田書店)
 「ホテルマネジメント 15のポイント」(銀行研修社)

授業計画

1. 講義概要の説明
2. ホテルの仕事と事業構造
3. ホテル・マーケティング
4. 損益計算書の基礎
5. ホテル・ユニフォーム会計 仕組み
6. ホテル・ユニフォーム会計 部門別損益・GOP
7. 初歩の貸借対照表、キャッシュフロー計算書
8. ホテル開発のトレンド
9. ホテルの経営形態
10. ホテルの経営形態とリポート
11. ホテル開発 準備計画
12. ホテル開発 事業計画
13. 旅館における事業計画 (外部講師の予定)
14. ホテル・マネジメント
15. まとめ

予習・復習

ホスピタリティ産業を学ぶ学生は好奇心を持って欲しい。講義で取り上げる課題についてだけでなく、そこから派生する事柄について調べることも重要です。学生にとっては初めて聴く用語が多いので必ず復習をしてください。

備考

・授業内で実際に計算演習を行います。電卓持参あるいはスマートフォン電卓アプリの準備をしておいてください。
 ・秋に実施が予定されている厚労省の国家資格「ホテル・マネジメント技能検定 3級」受験者に向けて基礎学力をつけることも目標としています。

* 「ホテル事業経営論」の事前履修が望ましい